

「オール新潟による『次世代医療人』の養成」プログラム 報告会を実施しました

2018年3月24日（土）に、有壬記念館にて、「オール新潟による『次世代医療人』の養成」プログラム報告会を開催しました。

本プログラムは平成25年度より開始し、5年目の今年度で事業終了を迎えます。事業終了にあたり、これまでのプログラムでの活動を振り返り、今後の展開を考える目的で行いました。

初めに、これまで本プログラムに参加した学生・大学院生による成果の発表を行いました。「魚沼市『生活環境と健康についての聴き取り調査』」のタイトルで、新潟大学医学部医学科3年の小林賢人君が、「都市度により地域のソーシャルキャピタルが健康に与える影響の違い～JAGES 新潟研究より～」のタイトルで、新潟青陵大学の坪川トモ子先生が発表しました。共にこれまで新潟県内各地で行ってきた調査を基にした研究です。



次にプログラム報告として、次世代医療人育成センターの黒川亮先生より、「トータルヘルスケアワークショップ&フィールドワーク」に関して報告を行いました。5年間で9回のワークショップ・フィールドワークを実施し、医療系各学科より多くの学生が集まり学んだことを報告しました。

特別講演として、千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門教授の近藤克則先生より、「次世代の医療を考えるー社会的処方の可能性」のタイトルで講演をいただきました。近藤先生にはこれまで実施してきた「新潟のソーシャルキャピタルを考える会」に毎回参加いた



だき、ソーシャルキャピタルや、社会と健康に関する各種の話題を提供していただきました。今回も、社会的処方や地域診断について講演をしていただきました。

最後に、プログラムの総括として、プログラム責任者で新潟地域医療学講座地域



医療部門の井口清太郎先生より報告がありました。前出の「トータルヘルスケアワークショップ&フィールドワーク」の他、「医学研究実習」、「新潟のソーシャルキャピタルを考える会」、「新潟県内での大規模アンケート調査」等の取り組みを通じて、次世代の医療を担う総合診療医、医療従事者の養成を行ってきたことを報告し、事業終了後の今後も引き続き取り組みを継続していくことを確認しました。

